

北信教育事務所だより 第5号

令和元年11月18日(月)

～教師・学校・地域がつながるために～

見方・考え方を働かせ、



資質・能力を育成する。

「平行四辺形の面積の求め方を考えよう」

平行四辺形の紙を切り、直角三角形と長方形にわけるKさん。

となりで、Kさんをじっと見つめるHさん。

Kさんは、切り取った直角三角形を移動させ、平行四辺形を長方形になるように変形した。

Hさんは、Kさんに「 5×8 をすればいいんだね」と伝える。

Kさんは、「どんな平行四辺形も、長方形に直せばできる」と振り返った。



この度の台風19号により被害に遭われました児童生徒並びに保護者の皆様、教職員の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。被害に遭われました皆様並びに学校の日も早い復旧復興をご祈念申し上げます。

さて、今回の教育事務所だよりでは教育課程研究協議会の特集を致しました。先生方に各教科・領域での学びの様子をご覧いただくとともに、台風被害への対応から教育課程研究協議会が中止となった長野上水内地区の先生方にとりまして、少しでもお役に立ちましたら幸いです。

なお、長野県教育委員会のホームページに、教育課程研究協議会で使用したプレゼン資料を掲載してございます。ぜひご覧いただき、ご質問等ございましたら北信教育事務所までお問い合わせください。

各会場校の取組から

見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成する授業が、各会場で展開されました。

それぞれの教科領域等の授業における「注目したい点」を、資質・能力を育成するための授業改善のヒントとして、各校の実践に取り入れてみませんか。

新学習指導要領実施に向け、「子どもが、〇〇ができるようになる」授業づくりを、進めていきましょう。

国語

小学校2年

『未来の〇〇にあったらいいな、こんなもの』

【本時のねらい】 グループで自分の考えを発表し、感想や質問を伝え、話をつなげることができる。

＝注目したい点＝

- 1, 質問の観点を子ども
の既習事項から
引き出し据えた点
- 2, 重点的につける力を
決めだし系統表を作
成、運用している点



なかなか質問できなかったAさん。それを感じた友だちが再度発表をし、Aさんにアドバイスをします。友の支えをもとに質問することができたAさんの笑顔をみることができました。

社会

小学校5年 『私たちの生活と工業生産』

『果樹園の中で育ったSS（農業散布車）』

【本時のねらい】 SSの製造に関わる人々が、農家のニーズに応じて、優れた製品を生産するために、様々な工夫や努力をしていることを理解する。

＝注目したい点＝

- 1, 技術開発について、
生産者や消費者の立場
から多角的に考察でき
る学習問題の設定
- 2, 工場見学の際の視点
を明確にもてるようにし
た、単元展開の工夫



既習事項（農家の抱える課題や要望、SSの働き等）を想起しながら資料を読み取ることで、技術開発と農家のニーズを関連付けて話し合う姿が見られました。

算数

小学校5年

『面積』

【本時のねらい】 既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に平行四辺形の面積の求め方を考える。

＝注目したい点＝

- 1, 自分の考えを広げ深
めるような「かかわる
場面」の設定
- 2, どのように考えたら
求められたのかを自ら
の言葉で書く振り返り



面積を求めることができる図形に「分ける」「変形する」といった考え方を働かせ、友とかかわりながら平行四辺形の面積の求め方を見いだす姿が見られました。

理科

中学校2年

『電流の性質～回路に加わる電圧～』

【本時のねらい】 生徒が根拠のある仮説を立て、主体的・対話的に実験に取り組み、思考することができる。

＝注目したい点＝

- 1, 「電圧」という見え
ないもののモデルで
の可視化
- 2, 授業のUD化を進
め、実験操作等のつ
まづきを支援



モデルを操作しながら仮説を立てたことにより、グループ内の対話の質が高まり、回路に加わる電圧の概念や規則性を見いだしていく姿が見られました。

総合

小学校4年

『竹っ子ランドをつくろう』

【本時のねらい】 竹名人や友だちのアドバイスを参考に、試行錯誤して「竹おもちゃ完成」への見通しをもつ。

＝注目したい点＝

- 1, 「竹のある暮らし」と
して、竹林での活動や竹
を使う活動を繰り返した
こと
- 2, 子どもの思いに寄
り添った「単元展開」
と「教師のかかわり」



何度も竹と関わってきたことにより、竹の特質を生かしたおもちゃ作りをする姿が見られました。教師は、試行錯誤する子どもをじっと見守り、願いに寄り添う支援をしていました。

外国語

小学校 6年

『What do you want to watch?』

【本時のねらい】 オリンピック競技の特徴等について、調べた情報を伝えたり、聞き取ったりすることができる。

＝注目したい点＝
1, ペアで、サポートし合いながらやり取りに取り組ませた点
2, 総合的な学習との関連で、伝えたいという思いを高めた点



「情報への愛着」を持たせることで「やり取りのエネルギー」を育むという本校の取組により、ジェスチャーを交えて英語で競技の特徴を伝える姿が見られました。

道徳

小学校 2年

『思いやりの心で』

【本時のねらい】 身近にいる人に思いやりのある行動をとることができる判断力や心情を育てる。

＝注目したい点＝
1, 自分との関わりで考えることができる道徳的な問題の設定
2, 役割演技で感じたことを語り合い、自己の生き方を考えた点



役割演技で感じた「わざとではないが、友だちの大切な物を壊した人の気持ち」を語り合うことで、相手のことを考え優しく接していきたいと考える姿が見られました。

特別活動

小学校 4年

『3年生ともっと仲良くなれる会を開こう』

【本時のねらい】 自分たちも3年生も、みんなが楽しめる交流会の成功に向け、協力して係活動に取り組む。

＝注目したい点＝
1, 子供が願いを共有し実現することができる環境づくり
2, 子供の願いを受け止め、一人一人の良さを認める教師の支援



3年生の笑顔を想像しながら準備に没頭する子供たち。そこに寄り添い、取組の良さを認める教師。主体的な集団活動を通して友とのより良い関係を築いていく姿が見られました。

特別支援

小学校 6年（通常学級：社会）

『明治の国づくりを進めた人々』

【本時のねらい】 大日本帝国憲法と五日市憲法（私擬憲法）を比較しながら、伊藤博文の思いを考える。

＝注目したい点＝
個への配慮を念頭に置いた授業のUD化
1, 考えることを明確にする学習カード
2, 教材提示の工夫
3, 授業の構造化



導入で学習課題が焦点化され、伊藤博文の思いを集中して考える姿が生まれました。その姿は、全体共有における、思考の深まりへとつながる姿が見られました。

特別支援

中学校特別支援学級合同

保健体育『体づくり運動』

【本時のねらい】 体の動かし方や用具の使い方を工夫して、自分に合ったサーキット運動をつくる。

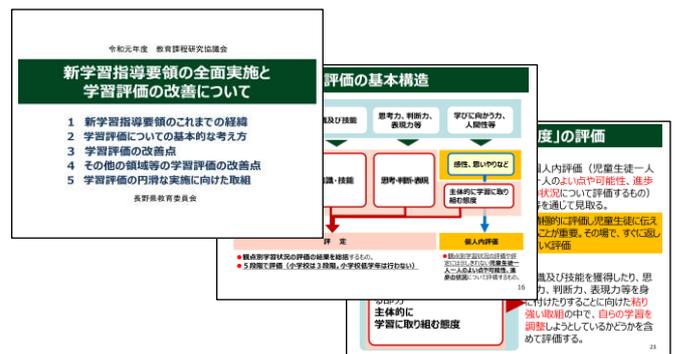
＝注目したい点＝
自立活動の視点（心理的な安定等）を意識した教科学習
1, 既習内容を生かした課題更新
2, 個に応じた課題設定



既習内容を組み合わせればよいことや、自分で試す場が準備されていたことにより、見通しをもち、安心してそれぞれの課題に取り組む姿が見られました。

こちらもチェック！！

教育課程研究協議会の午後の研究協議会でお伝えした総則と各教科領域のプレゼンは、長野県教育委員会のホームページに掲載されています。併せて、ご覧ください。



検索 学びの改革支援課 令和元年度教育課程説明資料

人権教育 ～自分の部落史の知識・理解を見直そう～

部落史について正しい知識・理解をもって指導にあたっているでしょうか。同和教育がはじまったころと現在では、部落史の見方がずいぶん変わってきています。「部落史の見直し O×クイズ」に挑戦し、自分の部落史の見方について見つめ直してみましょう。

「部落史の見直し O×クイズ」に挑戦してみましょう！

<問題>

- 【第1問】 部落差別は、江戸時代のころに始まったとされている。
- 【第2問】 江戸時代、「士農工商」という言葉は一般的に身分の上下を指す言葉として使われていた。
- 【第3問】 江戸時代、被差別部落の人々は幕府に他の人々よりも下の身分に位置づけられていた。
- 【第4問】 被差別部落の人々は、河原や荒地のような生活条件の悪い所や、村や町の外れに住まわされ、当時の人々の好まない役目を負わされていた。
- 【第5問】 江戸時代、被差別部落の生活は農民以上に貧しく苦しかったため、被差別部落では人口が減少した。

<答え>

- 【第1問】 ×
部落差別は江戸幕府がつくったものではなく、中世（平安時代～室町時代）の頃が起源であるとされている。かつて日本では、死・出産・自然災害など、非日常的なものを「けがれたもの」と考える風潮があった。そのけがれを清める役割（葬送・死牛馬の処理・行刑など）を担った「キヨメ」と呼ばれた人々に対する「ありがたいけど恐ろしい」という考え方が、次第にけがれを清める者そのものを「けがれたもの」としてとらえ、敬遠・排除するようになったとされている。
- 【第2問】 ×
「士農工商」は、古代中国で使われた「いろいろな人たち」という意味の言葉であり、身分上の序列を表す言葉ではなかった。ちなみに、百姓と町人は、主な居住地が農山村であるか町場であるかによって区別されていたと考えられている。
- 【第3問】 ×
被差別部落の人々は、武士・百姓・町人などの枠に入らない「別の民衆」として、地域社会から排除されていたと考えられている。
- 【第4問】 ×
被差別部落の人々は、職業上作業しやすい場所に住むことを自ら選択したと考えられている。皮革業を営む者なら、河原に住む方が死牛馬を解体し、皮を洗う上で都合が良かった。また、被差別部落の人々は、当時の人々の生活に必要な仕事をしていたといえる。村や町を警備して治安を守ったり、能楽などの諸芸能や寺の庭園づくりを通じて日本の文化の発展に貢献したり、医者や医薬品製造などに従事して医学の発展に功績を残したりした人も多くいた。
- 【第5問】 ×
被差別部落の人々は、一様に貧しかったわけではないとされている。江戸時代中期以降の日本の人口は、約3,000万人と停滞していったが、被差別部落の中には人口が増えている所もあった。その理由として、革細工、竹細工、履物の製造や販売など多様な仕事に従事していたため、経済力があつたことなどが考えられている。

《参考》「リーフレット同和問題」（山ノ内町人権政策室・教育委員会）「人権つうしん34号」（長野県教育委員会）
「同和問題について考えよう【教職員用】」（神奈川県教育委員会）

平成28年12月に『部落差別の解消の推進に関する法律』が施行され3年が経過しました。この法律における取組のひとつに、部落差別を解消するための「教育及び啓発」が掲げられて、学校教育が担う責任、社会からの期待はより大きくなったといえます。そのために、各学校では、子どもたちが部落差別に対して正しい知識をもち、差別は自分の問題であることに気づき、差別をなくす意欲や実践力をもてるような人権教育の指導が大切となります。

部落史について、詳しく学びたい方は、長野県教育委員会事務局心の支援課のホームページに「小・中学校の学習内容から考える部落差別について」という資料がありますので参考にしてください。

資料のURL www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kokoro/jinken/gakko/documents/010510burakusabetu.pdf

信州型ユニバーサルデザイン（信州型UD）の推進 シリーズ② ～長野市立鍋屋田小学校～

UDリーダーは内山ほか先生です。鍋屋田小の先生方は「困り感のある〇〇さんや△△さんが、特性をいかして前のめりになる授業をしたい」という願いをもっています。内山先生を中心に、授業改善の実践を重ねています。

内山先生が自ら講師となって合理的配慮や授業のユニバーサルデザインについて全職員で研修を行いました。(1学期)

先生方が普段実践している、子どものつまずきから学んだ指導の工夫を出し合い、お互いの実践のよさを共有しました。(1学期)



なるほど、こんなとき〇〇先生みたいに、視覚化して提示すると、子どもたちをひきつけることができるかも!

内山先生のUDにおける専門的な知見と教科性を考えて

子どもの姿から、指導の工夫が効果的であったのかを省察します。



また、日頃から、ちょっとした時間に授業について語り合っています。

子どものつまずきを予想して



積極的に授業実践授業公開

連学年会で、どの子ども分かる授業を構想します。先生方の「あの子が授業にのめりこんでくれるには…どんな工夫ができるかな?」という、あたたかなまなざしが議論を支えます。(2学期)



【鍋屋田小の信州型UDの窓口】

「合理的配慮の提供」を基盤に、通常学級での配慮や効果的な指導の工夫を探り、『子どもに応じた多様な学び方』の実現を通してどの子ども分かる授業の実現に取り組んでいます。

「キラッ☆と輝く 子どもの先生の笑顔」 vol.3

学校訪問で出会った「笑顔」をコラム風に紹介します

小学校六年算数、単元「速さ」の導入場面です。T先生は、速さをどう比べればよいかについて考える活動を位置付けました。Aさんは、単位量当たりの考え方を働かせ、速さの比べ方を考えていきました。

T先生は、ブタとゾウとクラスのHさんの写真を提示して、「だれが一番速いと言えるだろう」と、子どもたちに問い掛けました。すると、「十秒の中で、一番遠くまで行った人が速いんじゃないか」、「同じ距離を何秒で走り切れたかで比べられそう」といった児童からの発言◆その後、速さの比べ方を考えるグループ追究で、Aさんは、「同じ距離を何秒で走り切れたか」と少し自信なさげに友達に伝えます。ほかの友達は、「何秒の間にどれだけ進んだか、歩幅の数を何回かにして…」や、「一秒とか十秒とかで何m行くか考えて、いちばん行った人が速い」と発言。それを聞いたAさんは、「ああ!一秒でね…」と小声でつぶやきました◆グループの話し合いを経

て、進んだ道のりとそれにかかった時間が分かれば、速さを比べられることが見えてきました◆T先生は、「ブタ、8秒で40m」「ゾウ、9秒で40m」「Hさん、9秒で50m」と提示し、ブタとゾウとHさんの速さの順位をつけるよう促しました。Aさんは単位量当たりの考え方を基に、「40÷8=5m、50÷9=5.5m、40÷9=4.4m」とノートに書き込み、道のりを時間で割った商の値から、「①ブタ、②Hさん、③ゾウ」と速さの順位を決め出しました◆Aさんのノートを見たT先生はAさんに、「9で割ったということは、どういうことかな」と声を掛けました。Aさんは、「一秒間に5・5m走った」とつぶやき、「じゃあ、反対だ!」と声を上げました。それを受け、「分かっていたね。すごいじゃん!」と笑顔でAさんに声を掛けるT先生。ノートに書いた速さの順番を「①Hさん、②ブタ」と笑顔で書き直すAさんの目には、涙も溢れていました。

【このエピソードから大事に考えたいこと】「9で割ったということは、…」というT先生の発問は、Aさんに1秒当たりで進んだ道のりで速さを比べていたことを自覚させています。Aさんの追究の姿を捉え適切に声を掛け、正しく理解できたAさんの姿をすぐに認め励ますT先生の温かさが、Aさんのできた嬉しさや自信につながっていました。